

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和3年度学校評価 中間評価

達成度(評価)	
A	十分達成できている
B	おおむね達成できている
C	やや不十分である
D	不十分である

1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> 自己肯定感を持つ児童生徒の割合が目標80%に達することが出来なかった。自己肯定感をたせていくために、学年の実態に応じた個々の出番の設定と成功体験の実現・承認の機会設定の機会を設けるようにする。 前期課程への後期からの乗り入れ授業が進み、5・6年で教科担任制が進んだ。子どもと職員が係わる時間の確保を図っていくため、義務教育学校の特徴を生かしながら業務改善をさらに進めたり、職員の意識改革を図ったりしていく。 特別支援学級在籍が20%を超え、一人ひとりにあう指導に取り組んだ。さらに特別支援学級や配慮を要する児童生徒への理解を深めるために、インクルーシブ教育の充実を図ったり、計画的な職員研修の機会を設けたりして、共通理解を図る。
2 学校教育目標	志をもち、自ら学び、共に高め合い たくましく生きぬく西溪っ子の育成
3 本年度の重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ○「チーム西溪」としての義務教育学校教職員の協働力の推進 ○「主体的・対話的で深い学び」による学力向上、「あくしゅタイム」の推進 ○いじめの未然防止、早期発見・早期対応、再発防止の取組強化 ○インクルーシブ教育の理念に基づく特別支援教育の充実

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
●学力の向上	●全職員による共通理解と共通実践	●学力向上対策評価シートに示したマイプランの成果指標を達成した教師90%以上	●本校の課題を意識し、学力向上対策シートを活用し、取組の工夫改善を行う。	A	●学力向上対策評価シートのマイプランの目標達成状況についてアンケートを実施した。結果を見ると、目標が達成できたとする教員が91%とあり、十分な状況であると考える。一方で、目標を達成できなかった教員が9%あり、PDCAサイクルを利用したさらなる研鑽が必要であると考える。					○教務主任 各担任
	○主体的・対話的で深い学びにつながる授業実践	○「あくしゅタイム」(考えを交流する活動)で、自分の考えを深めたり広げたりすることができると思う」と回答した児童生徒80%以上	●教育活動全体で「あくしゅタイム」を推進し、児童生徒の考えを深めたり広げたりする。手だてとして、1日1時間以上の授業で「あくしゅタイム」を設定する。	B	●「あくしゅタイム」を取り入れた学習について児童生徒に意識調査を実施した。その結果、学習内容がより理解できたとする割合が90%であった。一方、「あくしゅタイム」を積極的に行ったとする教員は38%にとどまっており、あくしゅタイム導入の在り方をさらに深める必要がある。					○指導法改善 学力向上コーディネーター 各担任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける道徳教育の充実	●アンケートで「学校は道徳など心の教育に積極的に取り組んでいる」と回答する保護者85%以上	●一人一授業の研究授業を行ったり、研修会を行ったりして道徳科授業の工夫改善を行う ●家庭や地域に、道徳通信を年3回発行する。	A	●アンケートでは90%の児童が自分の気持ちを表し、友達のことを大切にしていると答えた。1学期に全体授業研究会を2回実施して、一人一授業の取り組みも進んできている。道徳通信も年間の計画を立て、学期に1回ずつ発行していく。道徳科の授業と学校行事を関連付けた取り組みを充実させていきたい。					○道徳主任 各担任
	●いじめの早期発見、早期対応体制の充実	●いじめ防止等について、組織的対応ができていると回答した教師80%以上	●毎月「あくしゅアンケート」や日記帳、学活ノート等で、いじめの早期発見、早期対応を迅速に行う。	A	●いじめ防止等について、組織的な対応を全校で確認した。具体的取組である月1回のあくしゅアンケート等を通して、いじめの早期発見、早期対応を実施しているため、今後も継続して取り組みたい。					○生徒指導主事 教育相談主任
	○児童生徒が夢や志を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動の充実	○「将来の夢や目標を持っている」について肯定的な回答をした児童生徒90%以上	●行事や体験活動では、児童生徒の自主性・自発性を大切に、キャリアパスポートにつなげる。 ●各種体験活動では、児童生徒に活動の見通しを立てさせ、学びの振り返りをさせる。	B	●西溪会を中心に生徒の思いを考慮しながら、各行事の内容を検討して実施することができた。しかしながら、アンケートで肯定的な回答をした児童生徒は80%未満であった。今後は行事や体験活動を通して達成感や自己肯定感が高まるように取り組みを充実させていきたい。					
●健康・体づくり	●望ましい生活習慣の形成	●「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣が出来ているという児童生徒・保護者80%以上 ●気持ちの良いあいさつを進んで行っているという児童生徒80%以上	●学級活動や保健だよりの発行等で、児童生徒への啓発を行う。 ●西溪会によるあいさつの励行を推進する。	B	●80%以上の児童生徒が「早寝・早起き・朝ごはん」の習慣がついている。 ●西溪会を中心に80%以上の児童生徒が、気持ちの良いあいさつを進んで行っているとアンケート回答した。しかし、場面によって差がある。特に、登校時の挨拶は、まだ十分とは言えない。					○養護教諭 食育担当 西溪会
	○安全に関する資質・能力の育成	○児童生徒の交通事故・生活事故の発生件数0(ゼロ)	●交通安全教室、集団登校、自転車点検において自己の振り返りを実施する。	B	●全体的には交通事故・生活事故の(ゼロ)を達成できていたが、マナーや交通ルールの面では地域の方からの注意を受けることがあった。 ●後期課程では自転車点検を実施しているが、その使い方には不安が残る交通安全教室や、集会での指導を繰り返し行う必要がある。 ●前期課程では集団登校を行っており、下級生も安全に登校する意識が育まれている。					○安全教育 生徒指導主事
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外勤務時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外勤務時間の上限45時間以内の遵守	●ペーパーレス会議の推進と、終了時刻の提示をして協議のみを行う。 ●学校施設時間の設定と徹底 ●定時退勤日の設定と徹底 ●タイムマネジメントを意識し、業務の効率化に向けて働き方を見直す。	A	●職員会議は、ペーパーレスで実施した。終了時刻が予定より遅れることがあった。職員会議資料を前日までの提示し、目を通すようにする。徹底したい。 ●教職員の時間外勤務時間が月平均は、29.2時間で、昨年度8%減であった。定時退勤日は、実施率があがり職員の意識も変わってきた。					○教頭 副校長
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組		具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
	取組内容	成果指標(数値目標)								
○特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教師の資質向上と支援体制の構築	○特別支援教育に関する専門性が向上した教師80%以上 ○ケース会議充実による具体的なかつ組織的な対応ができた教師80%以上	●特別支援教育に関する研修会の実施 ●ケース会議の開催、情報共有 ●児童生徒の実態を把握と保護者、SC、SSW、関係機関等の連携 ●個別支援計画の活用	A	●特別支援教育に対して理解が深まり、支援を行っている教師は100%。ケース会議や関係機関との連携は、必要に応じて行うことができた。また、個別支援計画は、紙媒体での保管場所を職員室に確保して日頃活用している。 ●研修は、1学期の研修は実施できたが、夏休みの研修					○特別支援教育コーディネーター 特別支援学級担任 各担任

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・ 次年度への展望	
--------------------	--